

第4問

次の文章を読んで、後の問い(問1〜6)に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。

(配点 50)

嘉祐(注1)禹偁(注2)子也。嘉祐(注3)平時若愚駭(注4)独寇(注5)準知之。準知(注6)開

封府、一日、問嘉祐曰、外間議準云何。嘉祐曰、外人皆云、丈

人旦夕入相。準曰、於吾子意何如。嘉祐曰、以愚觀之、丈人

不若未為相。為相則譽望損矣。準曰、何故。嘉祐曰、自古賢

相所以能建功業。沢中生民者、其君臣相得、皆如魚之有水。

故言聽計從、而功名俱美。今丈人負天下重望、相則中外

以太平責焉。丈人之于明主、能若魚之有水乎。嘉祐所以

恐譽望之損也。準喜起執其手曰、元之雖文章冠天下、至

於 深 識 遠 慮、殆 不 能 勝 吾 子 也。

(李燾『統資治通鑑長編』による)

(注)

- 1 嘉祐——王嘉祐。北宋の人。
- 2 禹偁——王禹偁。王嘉祐の父で、北宋の著名な文人。
- 3 愚駘——愚かなこと。
- 4 寇準——北宋の著名な政治家。
- 5 開封府——現在の河南省開封市。北宋の都であつた。
- 6 外間——世間。
- 7 丈人——あなた。年長者への敬称。
- 8 旦夕——すぐに、間もなく。
- 9 入——朝廷に入つて役職に就く。
- 10 吾子——あなた。相手への親しみをこめた言い方。
- 11 愚——私。自らを卑下する謙讓表現。
- 12 生民——人々。
- 13 如_レ魚之有_レ水——魚に水が必要であるようなものだ。君臣の関係が極めて良好であるさま。
- 14 明主——皇帝を指す。
- 15 元之——王禹偁の字。

問1 二重傍線部X「議」、Y「沢」の意味の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

29。

- | | | | | |
|---|---|------|---|---------|
| ① | X | 相談する | Y | 水を用意する |
| ② | X | 非難する | Y | 田畑を与える |
| ③ | X | 論評する | Y | 恩恵を施す |
| ④ | X | 礼賛する | Y | 物資を供給する |
| ⑤ | X | 批判する | Y | 愛情を注ぐ |

問2 波線部Ⅰ「知之」・Ⅱ「開封府」の解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 30 ・ 31。

Ⅰ 「知之」

30

- ① 王嘉祐が決して愚かな人物ではないことを知っていた
- ② 王嘉祐が乱世には非凡な才能を見せることを知っていた
- ③ 王嘉祐が世間の評判通り愚かであるということを知っていた
- ④ 王嘉祐が王禹偁の子にしては愚かなことを知っていた
- ⑤ 王嘉祐が王禹偁の文才を受け継いでいることを知っていた

Ⅱ 「開封府」

31

- ① 開封府の長官の知遇を得た
- ② 開封府には知人が多くいた
- ③ 開封府の知事を務めていた
- ④ 開封府から通知を受けた
- ⑤ 開封府で王嘉祐と知りあった

問3 傍線部A「丈人 不若 未為 相。為 相 則 誉望 損矣」について、(i)書き下し文・(ii)その解釈として最も適当なもの

を、次の各群の①、⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は

32

33

(i) 書き下し文

32

- ① 丈人に若かずんば未だ相と為らず。相と為れば則ち誉望損なはれんと
- ② 丈人未だ相の為にせざるに若かず。相の為にすれば則ち誉望損なはれんと
- ③ 丈人若の未だ相と為らずんば不ず。相と為れば則ち誉望損なはれんと
- ④ 丈人未だ相と為らざるに若かず。相と為れば則ち誉望損なはれんと
- ⑤ 丈人に若かずんば未だ相の為にせず。相の為にすれば則ち誉望損なはれんと

- ① 誰もあなたに及ばないとしたら宰相を補佐する人はいません。ただ、もし補佐する人が現れたら、あなたの名声は損なわれるでしょう。
- ② あなたはまだ宰相を補佐しないほうがよろしいでしょう。もし、あなたが宰相を補佐すれば、あなたの名声は損なわれるでしょう。
- ③ あなたはまだ宰相とならないほうがよろしいでしょう。もし、あなたが宰相となれば、あなたの名声は損なわれるでしょう。
- ④ あなたは今や宰相とならないわけにはいきません。ただ、あなたが宰相となれば、あなたの名声は損なわれるでしょう。
- ⑤ 誰もあなたに及ばないとしたら宰相となる人はいません。ただ、もし宰相となる人が現れたら、あなたの名声は損なわれるでしょう。

問 4

傍線部 B「言聴計従」とあるが、(i)誰の「言」「計」が、(ii)誰によって「聴かれ」「従はれ」るのか。(i)と(ii)との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

34。

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (i) | (i) | (i) | (i) | (i) |
| 生 | 明 | 賢 | 君 | 丈 |
| 民 | 主 | 相 | | 人 |
| | | | | |
| (ii) | (ii) | (ii) | (ii) | (ii) |
| 明 | 賢 | 君 | 生 | 相 |
| 主 | 相 | | 民 | |

問5 傍線部C「嘉祐所以恐_レ譽望之損_二也」とあるが、王嘉祐がどのように述べるのはなぜか。その理由として最も適當なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 35。

- ① 宰相は寇準に対して天下を太平にしてほしいと期待するだろうが、もし寇準が昔の偉大な臣下より劣るとすれば太平は実現されず、宰相の期待は失われてしまうから。
- ② 人々は寇準に対して天下を太平にしてほしいと期待するだろうが、もし寇準が皇帝と親密な状態になれなければ太平は実現されず、彼らの期待は失われてしまうから。
- ③ 皇帝は寇準に対して天下を太平にしてほしいと期待するだろうが、もし寇準の政策が古代の宰相よりも優れていなければ太平は実現されず、皇帝の期待は失われてしまうから。
- ④ 人々は寇準に対して天下を太平にしてほしいと期待するだろうが、もし寇準が皇帝の意向に従ってしまえば太平は実現されず、彼らの期待は失われてしまうから。
- ⑤ 宰相は寇準に対して天下を太平にしてほしいと期待するだろうが、もし寇準が皇帝の信用を得られなければ太平は実現されず、宰相の期待は失われてしまうから。

問6 傍線部D「殆不能勝吾子也」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解

答番号は

36。

- ① 王嘉祐は宰相が政治を行う時、どのように人々と向き合うべきかを深く知っている。したがって政治家としての思考の適切さという点では、父の王禹偁もおそらく王嘉祐にはかなわない。
- ② 王嘉祐は寇準の政治的立場に深く配慮し、世間の意見の大勢にはつきりと反対している。したがって意志の強さという点では、父の王禹偁もおそらく王嘉祐にはかなわない。
- ③ 王嘉祐は今の政治を分析するにあたり、古代の宰相の功績を参考にしている。したがって歴史についての知識の深さという点では、父の王禹偁もおそらく王嘉祐にはかなわない。
- ④ 王嘉祐は皇帝と宰相の政治的関係を深く理解し、寇準の今後の進退についての確に進言している。したがって見識の高さという点では、父の王禹偁もおそらく王嘉祐にはかなわない。
- ⑤ 王嘉祐は理想的君臣関係について深く考えてはいるものの、寇準に問われてはじめて自らの政治的見解を述べている。したがって言動の慎重さという点では、父の王禹偁もおそらく王嘉祐にはかなわない。